

## 「アジア・太平洋の新秩序」研究会 第5回研究会 議事要旨（案）

1. 開催日時：平成27年2月25日（水）18：00－20：00
2. 開催場所：東京財団 会議室 A（東京都港区赤坂1－2－2日本財団ビル3階）
3. 出席者（敬称略） ※共同主査

### 委員

- ・秋山昌廣※ 東京財団理事長
- ・川口順子※ 明治大学研究知財戦略機構特任教授/東京財団名誉研究員
- ・秋元諭宏 三菱商事株式会社理事 グローバル渉外部長
- ・伊藤 元 石油資源開発株式会社常務執行役員
- ・近藤誠一 近藤文化・外交研究所代表
- ・齊藤敏夫 防衛省防衛研究所長
- ・津上俊哉 津上工作室代表
- ・菱田雅晴 法政大学法学部教授
- ・門間大吉 財政総合政策研究所長
- ・山本吉宣 新潟県立大学政策研究センター教授/東京大学名誉教授
- ・渡辺昭夫 平和・安全保障研究所副会長/東京大学名誉教授
- ・渡部恒雄 東京財団政策研究事業ディレクター(外交・安全保障担当)

（敬称略、各項五十音順、※共同座長）

### 事務局

- ・関山 健 事務局長/東京財団研究員/笹川日中友好基金室長/
- ・鎌江一平 事務局長補/明治大学国際総合研究所共同研究員
- ・花田美香子 事務/東京財団政策研究アシスタント
- ・上田尋一 事務/明治大学国際総合研究所研究支援員
- ・劉曉燕 事務/明治大学国際総合研究所共同研究員

## 4. 配布資料

- 議事次第
- 研究会出席者リスト
- 山本吉宣氏略歴

## 5. 議事 (要旨)

### (1) 講師講演

講師：山本吉宣氏 (新潟県立大学政策研究センター教授／PHP 総研研究顧問  
東京大学名誉教授／青山学院大学名誉教授)

テーマ：21世紀の大国像——国際秩序の変容の文脈で

問題意識：

- 世界のパワーバランスが変化の中で、21世紀の大国とは何か。
- 中国やインドなど (メガ新興国?) などの新興国が既存の大国 (米国) と並立すると言われる中で、国際秩序はどのようになり、どう形成されていくのか。
- 21世紀の「大国間の平和」とは?
- メガ新興国の台頭はいつまで続くのか? (2030年あたりまで?)
- 国際政治の大きな秩序変化は20年サイクル?

#### 1. 大国 (great power, major power) とは何か?

統一された定義はない、見方はさまざま。

→例えばウォルター・ラッセル・ミード (American Interest Jan.2015)

大国を”among all the world’s countries these are the ones with most ability to affect global politics by their choices”として、アメリカ、ドイツ、中国、日本、ロシア、インド、サウジアラビアを挙げる。

19世紀までは軍事力一辺倒・・・戦争に勝てる国、高の大国に負けない国、世界の軍事力の5%以上を持つ国など (“大国”の意味は主にハードな面で考えられた)

現在ではそれが包括する範囲は拡大・・・軍事力だけでなく “経済力”、“意志”、“他国からの名声” など (ジョセフ・ナイのソフトパワーなど)

#### 2. 大国のシステム

大国クラブ・・・国連の安保理や G7、G20、また新興国を中心とする BRICS などフォーマルなものから、時のニーズや緊急性をもとに組織される有志連合などインフォーマルなものもある。

大国クラブ内外の構造・・・内では勢力均衡や協力、外では地域的覇権?

大国の種類：

オールラウンド→政治、経済、軍事などあらゆる分野で強い＝米国

スペシャリスト→ある特定分野で強い＝経済の日本

真の大国→国際規範を重視し、それを実行する能力もある  
軍事大国→国際規範を重要視はせず、それを実行する能力がある  
規範国→国際規範を重視するが、それを実行する能力は低い。  
※ 他にも満足国家と不満足国家、大陸国家と海洋国家など。

覇権システム：

Imperial America, Chinese tributary system, ソ連型覇権システムなど

アメリカ覇権が後退するのか？

米国の一極体制→パワートランジション→中国の挑戦、ロシアの挑戦？

中国の野望は **Historical normal**（昔中国が大国だったレベルまで戻る？）

挑戦と回帰 Geo-history の時代？

### 3. 現在国際秩序の変遷

今日はパワートランジションの中にあり、単極から2極（米中）もしくは多極へ？

パワーは **West** から **East** へ？ 新興国の影響力増大？

→必然的に秩序変化（**Order transition**）

ポストモダン化 or 再モダン化 or 先進国/新興国の **mixture**（インドやブラジル）

リベラル（ポストモダン）秩序とモダン秩序の対抗：

リベラル秩序の支配と維持→米国の影響力が維持、モダン国家のポストモダンへの移行（中国の民主化？）

両者の競争的並存→イデオロギーの対立やバランスオブパワー（米中で？）

- ・相互浸透的覇権（経済のグローバル化における米中間？）
- ・非相互浸透的覇権（冷戦構造）

両者の非競争的並存→リベラル秩序と“the world without the West”、米主導秩序とメガ新興国の台頭は非競争的（棲み分け？）、G7とBRICSの非競争関係など  
平和的並存→ウェストファリアの原理、米中の新型大国間関係

モダン秩序の支配と維持→ポストモダン国家のモダン国家への移行（米国や日本などが中国のように？）

既存の国際関係と今後を考えれば、リベラル秩序とモダン秩序の並存が最も現実的。

## (2) 研究会ディスカッション

研究会のディスカッションでは上記講演を踏まえ、以下の点を中心に議論された。

- 今後中国は覇権国家、帝国になるのか
- 中国は公共財を提供する国になるか
- モダンとリベラルは対比的なものか
- 今後の米中関係を左右する要因は何か
- 日米中間での2か国間同士の接近が第三国に与える影響
- リベラルとモダンの並存はいつまで続くのか
- リベラルとモダンの並存を基本とする国際環境でも、自らの国益のためモダン国家は覇権的な行動に出ることはないのか

## (3) 今後の研究会日程等について

- 第6回研究会は、3月中旬から下旬に行う方向で調整。来年度のことも念頭に今年度行ってきた議論をさらに深める形でメンバー間にて意見を出し合い共有する形での研究会を行う予定。時間は同じく18:00～20:00。

20時10分に終了